



新年の願い

エマニュエル・ポポン神父

御降誕おめでとう、新年おめでとう。

新年を迎えるとすぐ降誕祭を忘れてしまいます。しかも、ほとんどのの人にとって、新年と主の御降誕は関係がありません。よく思えば、確かに関係がないと思うことは当然です。新しい年は地球の公転に繋がり、すべての生き物に影響があります。その一方、イエスの誕生は今よく知られているけど、信者以外の人にはあまり影響がありません。とはいえ、実は私たちが宣言する信仰は違います。

イエスの誕生日は今まで知られていません。しかし、イエスの誕生の影響は信者だけではなく全てのものに及ぶことを示すために、昔の教会は真冬の中で一番暗い時期をイエスの誕生日として決定しました。新年が春と光に向かっていくのと同じように、イエスの誕生は人類の永遠の春と光に向かっていきます。イエスの誕生日を祝うことは信じる人のためだけではありません。主イエスは存在するすべてに朝日のように神の光をもたらします。私たちはそれを信じ、喜んで迎えます。そして、再びこの世を訪れることをも望みます。その時、喜びがすべてを満たします。

新年とイエスの誕生のつながりは希望です。新年は希望をもたらします。新年の時に良い年を願います。つまり、明るい明日を望みます。信者にとって、その明るい明日はイエスがすでに用意してくださいます。その明るい明日をしんじるからイエスの誕生日を祝います。イエスの誕生と生涯によって私たちが抱く喜びと光への願い。希望が叶えられました。

今年の願いとして、主イエスがもたらす喜びが皆さん、そしてすべての人を訪れるようにお祈りいたします。

Joyeux Noël et Bonne Année!

教会維持費について

いつも教会維持費へのご協力有難うございます。教会の運営やいろいろな活動を支える財源の中で最も大きな部分を占めるのが信徒からの教会維持費です。

カトリックでは教会の掟の一つとして「各々の分に応じて教会維持費を負担すべし」と定められています。いつも私たちと共に居られ、守り導いて下さっている神様に対する感謝の気持ちを私たちは金額の多寡に拘わらず捧げることが大事だと思います。

住吉教会へ来られている方で教会維持費をまだ納めておられない方は可能な限りのご協力をお願いいたします。

皆様のトレーに教会維持費の献金封筒を入れさせていただきましたので、
2018年もどうぞよろしくお願ひ致します。神に感謝 財務チーム

「世界こども助け合いの日」を迎えて

毎年、1月の最終日曜日(2018年は1月28日)は、「世界こども助け合いの日」となっています。多くの皆さまのご理解とご協力をいただき、カトリック教会のみならず、カトリック系の学校、幼稚園、保育園の生徒や児童の皆さん、保護者の方々からも暖かいご支援をいただいておりますことを、心から感謝申し上げます。

先日、ユニセフが行っている、「こどもたちの命と未来を守る水支援」のことを知りました。世界の人口の半数以上が水道の水を使えるようになっている現在でも、今なお6億3千万人以上の人々が、身近に安心して飲める水がなく、池や川、湖や整備されていない井戸などから飲料水を得ているのだそうです。多くの途上国で、水汲みは子どもの仕事です。サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、330万人を超える子どもたちが、水の重さに耐えながら、毎日、遠い道のりを歩いています。疲れ果てた子どもたちには、もちろん、学校に通う時間も体力も残されていません。

エチオピアの13歳の少女が紹介されていましたが、彼女は朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて家族のために水を汲みに行きます。それでも手に入る水は、1日あたり5リットル未満の茶色く濁った水だけです。しかし、家族が生きるために、毎日、小さな少女にはあまりにも過酷な労働を繰り返さなければなりません。近くに井戸ができれば、彼女の人生は変わっていくのではないのでしょうか。

そのような子どもたちが飲んでいる水は、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水で、浄水処理をしないとたちまち下痢を起こしてしまいます。子どもたちは下痢による脱水症状を繰り返すうちに、慢性的な栄養不良に陥り、他の病気にもかかりやすくなります。汚れた水を主原因とする下痢で命を落とす乳幼児は、年間30万人、毎日800人以上にもものぼっています。こうした健康被害のために発育が阻まれ、あるいは水くみのために学校に通うことができず、多くの子どもたちの未来が閉ざされています。

わたしたちの未来を託された子どもたちが、このように厳しい状況に置かれていることは、本当に辛く、悲しいことです。それは、どこか遠くで起こっている問題ではなく、父である神が心を痛めながら見つめ、神の家族全体に問いかけておられる現実でしょう。わたしたちは、このような世界の痛みをわずかでも分かち合い、小さな犠牲を捧げたいと思います。

昨年皆さまから「世界こども助け合いの日」に寄せられた献金に、前年度繰り越し金を加えて、2017年は、コンゴ、ケニア、ザンビア、マダガスカル、ウガンダ、インド、ハイチへ、総額55,603,937円を送金させていただきました。

大切な命が脅かされることなく、すべての子どもたちに明るい未来が約束されるよう、皆さまのお祈りとご支援を今年もよろしく願いいたします。

2017年11月10日
教皇庁宣教援助事業・カトリック児童福祉会
日本事務担当 川口薫